



尾張旭ロータリークラブ
「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

Weekly

・会長 井田 武憲
・幹事 桜井 雅博
・会報 占橋 裕志
・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
E-mail: owariasahi@mtekihohe.ne.jp
URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2051回 2013年3月29日(金) No. 1941

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「四つのテスト」

卓話担当者: 箕輪財務委員長

卓話者: 伊豆原職業奉仕委員長・福岡社会奉仕委員長・古橋エツ子新世代奉仕委員長・飯田国際奉仕委員長

演 題: 「中間報告」

前 回 第2050回 2013年3月22日(金) 記 録

- 齊 唱: 「日も風も星も」
- 出席者: 会員28名中18名出席 出席率64.28%
前々回補正出席率は3月8日分100%

会長あいさつ 井田 武憲

18日には、東海地方で「春一番」が吹き、そして、3月は年度末、学年末と一年の締めくくりの季節でもあります。

先日、新聞の投書欄に「卒業の歌」〔仰げば尊し〕が歌われなくなっているから継承してほしいという意見が掲載されていました。

卒業式といえば、皆さん方は「蛍の光」「仰げば尊し」の印象が強いのではないのでしょうか。卒業式次第の中の「卒業生・在校生別れの言葉」の中でうたう歌ですが、この曲が使われてきたのは、昭和の終わりから平成3～4年ごろまでだと思います。その後は、使われる曲がポップス調に変わってきました。

これも時代の流れだと思いますし、当時教べんを執っていた私たちには違和感はありませんでした。それは、教師や児童たちの中に式は既成ではなく、自分たちで創っていかうとする考え方が芽生えてきたことです。

「さようなら」「門出の歌」「巣立ちの歌」「いい日旅立ち」等そして自分たちで作詞、作曲を歌うことによって充実感や達成感があふれてくるものです。ちなみに、式場形態も体育館中央に演台、正面にひな壇を設置し卒業生が在校生と保護者に対面する方式に変化してき

ています。これも、既成の式に参加するのみでなく、自分たちで創っていくという表れだと思います。いろいろ考え方もありますが、参考になればと記しました。

幹事報告

- ・3/16 地区会長エレクト研修セミナー 於ウェスティンナゴヤキャッスル 大野会長エレクト、加藤清久副幹事出席。
- ・次回の会合: 新入会員研修会
- ・例会変更のお知らせ: 別紙。

卓 話

「旭労災病院の現状と将来」 病院長 木村玄次郎

独立行政法人 労働者健康福祉機構 旭労災病院は、どなたでも受診いただける市民病院的な公的基幹病院です。ほとんどの疾患領域をカバーし、救急病院にも指定されている総合病院です。健康診断(人間ドック)、ワクチンや予防接種も実施しています。「信頼される医療、誇れる医学」をモットーに安心・安全の医療を」スタッフ側も誇れるレベルで、患者さんに納得していただける形で提供することを理念



----- 雑 誌 月 間 -----

	4月 5日 (金)	4月12日 (金)	4月21日 (日)	4月26日 (金)
例 会 予 定	卓話担当者: 会員増強委員会 卓話者: 西尾輝久会員増強副委員長 演 題: 「会員増強について」	卓話者: 飯田 幸雄君 演 題: 「ロータリーあれこれ」	19日 (金) 振替 春の家族会 高山方面 商工会館前 AM8:00出発	卓話者: 浅野 善吉君 演 題: 「地域金融機関における取組状況について」
3分間スピーチ	飯田 幸雄君	加藤 勇夫君	—	—

としています。勿論、日本医療機能評価機構認定病院でもあります。

当院の特徴は、① 近隣、特に尾張旭市、名古屋市守山区の住民や医療機関から信頼されている、② 入院患者数の増加が最近顕著であり、今後も人口増加に伴って更なる増加が見込まれる、③ 二次救急指定(4月1日予定)の総合病院(250床)である、④ 地域中核病院に相応しい医師と設備が整っている、⑤ 診療科間の垣根が低く、若い医師や研修医から研修病院として人気が高い、⑥ じん肺など労災病院としての政策医療では常に全国的に高い評価を受けている、⑦ 50年を超える歴史があり、古いけれども大事に磨き込んで使われており輝いている、などです。

地域の方々に気軽に立ち寄りいただける、地域に溶け込んだ、病気でなくとも訪れたいくなる新しい病院形態を目指していきたくと考えています。今や、データ上も尾張旭市民の皆様が最も利用されている病院であり、全患者の1/3強を占めています。

1) 旭労災病院の沿革と地域基幹病院としての機能

当院の歴史は、瀬戸地区を中心とする窯業に起因するじん肺疾患を治療する専門病院として昭和35年設立されたことに始まります。その後、周辺環境は時代とともに激変し、当院の位置する尾張旭市(昭和45年誕生)や名古屋市守山区は、ベッドタウンとして人口増加が今でも顕著です。地元には市民病院に相当する公共医療機関がないため、診療科や病床数を増やしCTやMRIなどの最新設備を充実させ、専門病院から急性期総合病院へと方針を転換し発展を遂げてまいりました。現在では17の診療科を有するベッド数250床、医師数54名(研修医含む)の、尾張旭市や守山区では唯一の公的総合病院です。平成25年4月からは尾張東部医療圏(瀬戸市、尾張旭市、長久手市、日進市、東郷町、豊明市の5市1町)の二次救急病院にも指定されました。また、当院は、愛知県地域保健医療計画の中で、特に、がん診療、循環器疾患(急性心筋梗塞)、糖尿病に関し専門的医療を行う施設とされています。このように、地域に親しまれる「コンパクトで骨太の病院」として地域医療に貢献しています。どなたでも、いつでも、重症度に拘わらず気軽に受診いただけます。

2) 政策医療

労災病院は独立行政法人労働者健康福祉機構に属することから地域の基幹病院としての機能とともに、勤労者医療に関わる政策医療を担う義務があります。当院は呼吸器専門病院として発足したことから、じん肺やアスベスト疾患などの診療・研究・教育を受け持っています。最近注目されているアスベスト疾患については、中部地区ブロックセンターとして、この地区の指導的立場で診療・研究・医師などへの教育に尽力するだけでなく、厚労省、環境省などの審議会委員を派遣するなど全国的に活躍しています。

3) 研修医、レジデント、コメディカル教育

「コンパクトで骨太の病院」の利点、すなわち医師、コメディカルを含め全職員が顔の見える関係にあるため、病院をあげて医学生や臨床研修医あるいはコメディカルを育てようという雰囲気にあります。そのためか毎年多くの学生が実習や見学に来てくれます。臨床研修医も毎年4-5名採用しています。診療科間の壁が低く、どの科の医師にも気軽に相談できる環境は、特に初期研修医にとっては貴重です。医師になって直ぐの数期間は、その医師の一生を決めるほど重要だと私達は考えております。米国では「医師は、どの大学

を出たかではなく、どの病院で研修したかで評価される」と言われていますが、日本でもやっとな時代が来つつあると思います。それだけに初期研修医そしてそれに続く後期研修医の指導は責任重大です。彼らを責任もって指導できる魅力ある医師が当院には揃っています。

4) 地域との緊密な連携

地域と旭労災病院との関わりは、単に病気や老健施設からの患者さん、健康診断受診の方々に留まらず、尾張旭市や商工会、名古屋産業大学、ロータリークラブの催しや健康フェアなどのイベントへの協力、東日本大震災復興支援への職員派遣(医師、薬剤師など)、救命救急士の研修、金城大学や名城大学、愛知学院大学薬学部の臨床実習生、名古屋市立大学や名古屋大学医学部の学生臨床実習、瀬戸旭看護専門学校や名古屋市医師会看護専門学校、名古屋医専の看護学生実習、名古屋経済大学や修文大学の栄養士学生実習、星城大学や中部リハビリテーション専門学校、国際医療学術専門学校の理学療法士や作業療法士学生実習、中学校(近隣4校)生徒の職場体験受け入れなど、近隣社会・各種団体と密接な関係にあります。勿論、2週毎に院内で近隣医師との症例検討会、瀬戸旭医師会との伝統ある合同研究会(千成会)も積み重ねています。尾張旭市の政財界との懇話会でも積極的に発言しています。一方、ボランティアの方々には定期的に病院内を巡回し車椅子などを点検・修理、病院の被服や小物の修復お裁縫仕事などで御尽力いただき、深く感謝しております。このように相互に地域と密着した関係は今後益々重要性を増すものと確信します。

また、旭労災病院は、総職員数は379名、年商約51億円にも上る地域最大の事業主でもあります。一般住民の方々への医療情報発信の場としての役割も積極的に果たして行く所存です。

増改築が決定され、平成29年初旬には新病院をオープンすべく職員が一丸となって鋭意準備中です。「コンパクトで骨太の病院」が「温かみがあり生命の尊厳を大切にす」という新たな特徴を備え生まれ変わるのを是非、ご期待下さい。実質的に尾張旭市の市民病院の役割を果たしているにも拘わらず、病院と市の中心部を結ぶ道路が狭くバスの運行が不可能です。名古屋市守山区からのアクセスも同様です。昨年7月、旭労災病院に隣接する広大な土地を尾張旭市が名古屋市から購入しました。この土地を活用すれば、病院へのアクセスを改善させることが不可能ではありません。建設が間近に迫る中、道路をどうするかは、市民の皆様の御意見を集約して尾張旭市が責任を持って至急決定いただきたいと思っております。長期的には、病院周辺の遊休地を災害時の避難所とし、我々の病院が災害拠点病院の役割を果たせるような計画が重要ではないかと個人的には考えます。病院は社会や市民の根本的基盤であり、病院建設は市を活性化させる起爆剤でもあるため、「街起こし」に直結しています。是非、市民の皆様で議論を高めていただければ幸いです。病院に対する要望があればご遠慮なくお申し付け下さい。ロータリークラブの暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。次第です。
※ニコボックスは次週の掲載とさせていただきます。



